

人生最高の幸せと不幸(マルコ 15:6-15)

改めて新年あけましておめでとうございます。2024 年、新しい年を礼拝とともにスタートすることができて、心から感謝申し上げます。この新しい年を私たちはどのようにスタートすればよいのでしょうか。それはさまざまなことを考えて、またいろいろな課題を持っていらっしゃるでしょうけれども、私たちの人生において最も大事なことが何かを確認してスタートしようではありませんか。それを確認したことで、自分は本当に幸せなのかということを確認して、新しいスタートを切るようにしていきたいと思えます。

今日の聖書の箇所を見ますと、ピラトが囚人の一人を釈放する、赦免するそういう事例があったので、どう見てもいま逮捕されているイエス様は悪いことをしていないし、罪がなかなか見当たらないので、凶悪犯罪者、誰が見てもあの人にはもうダメと思われるバラバという人殺し、強盗の人を取り上げて、「この人の代わりにイエスを釈放するのはどうか」と提案したわけです。するとパリサイ人たちが群衆を先導して、「それはダメだ。バラバを酌してイエスを殺せ」と煽ったわけです。常識的に考えても理解できないし、法律的にも全く納得できないけれども、そういうことはお構いなしとにかく「イエスを十字架につけろ。イエスを十字架につけろ」と叫んだので、ピラトは群衆の機嫌を取るために殺人強盗犯である最高の凶悪犯罪者であるバラバを釈放して、イエスを十字架の死刑に引き渡しました。それが今日の聖書の箇所にある内容です。イエス様は悪いこともしていないし、死刑になるようなことは何もしていません。にもかかわらず、常識や法律などが全く通用しないのです。結局、イエス様を最高の凶悪犯罪者より凶悪犯のようにしてしまいました。これが話になるような内容なのではないでしょうか。しかし、実際にはそのようになりました。そして、ここで注目しないといけないのは、そのように全く罪のない、そして神様ご自身であるキリストであるイエス様を殺せと叫んで、結局、十字架に追い込んでしまった人々が誰なのかということです。彼らはイスラエルの人です。神様に選ばれた選民という自負を持っている人々で、神様からみことば、律法が与えられて、その律法を命がけで守っていた人々でした。そして、宗教的には神様に対する熱心があり、誰よりも神様を愛し、神様を信じているつもりで一生懸命、宗教生活をしてきた人々なのです。そういう人々がキリストであるイエス様を十字架につけてしまいました。なんと恐ろしいことでしょうか。なぜ神様に選ばれた選民で、神のみことばをいただいて、自分なりに神を愛するつもりで一生懸命、信仰生活をしているつもりなのに、このようになってしまうのでしょうか。その理由がどこにあるのでしょうか。それは彼らがいくら選民で律法をいただいて、いくら自分なりに信仰に熱心だとしても、福音が何かわかっていなかったのがそういう風になってしまいました。ここで私たちは、私たちの人生において何が一番大切なことなのか、何が一番重要なことなのかということを確認することができます。

1. 世界で一番恐ろしいことは福音を知らないことである。

第一です。世界で一番恐ろしいことは福音を知らないことです。

1) 今まで恐れていたこと

今まで私たちは何が一番怖かったのでしょうか。病気になることだったのでしょうか。もちろん病気になることはよくはありません。しかし、それが一番怖いことでしょうか。貧乏になることが一番怖いという人もいます。だから、人を殺してでもお金を手に入れようとする犯罪に手を染める場合もあります。また、学生にとってはいじめられることが何よりも怖いことかもしれません。でも、本当にそれが一番恐ろしいことなのでしょうか。なかなか人に認められない、無視されること、これが一番怖い人もいます。仲間はずれになって阻害されること、それに耐えられないまま命を絶ってしまう人もいます。それで孤独は怖いんだと、寂しくなることが一番私は怖いんですよ。そのように私たちも思って生きてきました。そういったことが合わさって精神的にまいってしまう、それが一番怖いんですよ。それをどうにかしようとして麻薬に手を出したり、結局、依存症になって中毒になってしまうこと、これは何よりも恐ろしいことであり、怖いことなんだとみなが思っています。いま私たちは大変な災難を目の当たりしています。災害はものすごく怖いことでしょう。だから、それを経験した人は何よりそれが一番怖いよ。戦争を経験した人は、世界で戦争が一番怖いんだよ。あってはならないよとずっと訴えています。もちろんそうかもしれません。それは決して良いこ

とではありません。しかし、いま礼拝を捧げて2024年を新しくスタートするクリスチャンの私たちは、真面目に冷静に考えないといけません。何が一番怖いのでしょうか。死ぬことなのでしょうか。私が一番大事にしているもの、それが奪われてなくなるのでしょうか。何が一番怖いことでしょうか。今日の聖書を通して冷静に考えないといけません。福音を知らないことが一番一番恐ろしいこと、怖いことなのです。

2) 福音とは？

福音というのは一体何でしょうか。福音はどんなものなのでしょうか。福音というのは、人間の本当の問題が私たちがわかっている問題ではなくて、霊的な問題だということに気づいて、人間の力では絶対解決不可能だということに気づくことなのです。それで自分の問題、人生の問題、人間の問題は神様のほかには解決できない。その神様が幸いなことに罪のないキリストを犠牲にして私の問題、人間の問題を代わりに解決されると約束されました。それを福音と言います。そして、その約束のキリストが、実はイエス様だったのです。その約束のキリストが実際に来られました。イエス様がキリストなのです。それが福音なのです。それで、そのイエス様が十字架にかけられて三日目に復活なさったことによって、私たちの問題、罪のすべての問題を代わりに完璧に完了なさって完璧に解決されましたというお知らせが福音なのです。だから、自分の問題、この人生の問題の解決の道、方法は他にありません。一つだけなのです。しかも人間の条件と関係ありません。人間のどうのこうのとは全く関係なく、誰でもこの代わりに解決なさったイエス様を信じるのが救いであり、信じることで人生すべての問題が終わり、信じることで問題を解決するようになるよというお知らせなのです。だからこそそれを福音というわけです。他に道があるわけではありません。人間の条件によって差別があるわけでもありません。私たちの方に何かがあるわけでもありません。代わりにすべてを完了なさったキリストであるイエス様を信じて受け入れることですべてが終わることになります。これを福音と言います。この福音を知らないとまた律法にこだわり、宗教にこだわり、過去にこだわり、人間の条件にこだわり、行いにこだわり、気がいrownなところに散ってしまいます。これを神様が私たちに与えられました。これが福音なのです。

3) 抜けられない滅びの運命のまま

この福音を知らないと、人は誰一人例外なく抜けられない滅びの運命に囚われてるままになります。聖書にこう書いてあります。ヨハネ3:18には「御子を信じる者はさばかれない。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれています」。福音を知らないでいるということは、今現在さばかれていますのままの状態なのです。その人がお金があるかないかとは関係ありません。成績優秀なのかダメなのかとも関係ありません。成功したのか失敗なのか、それも全く関係ありません。真面目な人間なのか、怠けた人間なのか、それも一切関係ありません。さばかれていますのままの状態です。すべての人は罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない。福音を知らないと罪のままであり、神を離れて神様のすべての祝福といのちが絶たれているままの状態なのです。福音を知らないとはそういうことです。そのままの状態です。幸せになるために頑張るだけなのです。絶対になれません。そして、神の栄誉を受けることができない罪を持っているということがどういうことなのかというと、あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出たものであるということです。認めたくないでしょうけれども悪魔の子と呼ばれる身分であり、悪魔の奴隷の状態のままなのです。だから何をどうしたのかとは全く関係ありません。生まれながら神の御怒りを受けるべき子として生まれてくるわけです。そのままなのです。ただ年を食っていただけであって、肉体的に成長していろいろな経験をし、努力したり挫折したり、そういうことしてるだけであって、基本的に根本的には生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれるわけです。誰がでしょうか。福音を知らないでいるとこのままの状態なのです。

4) 終わりのないさまよい

だから、その人の人生はさまよい続けるしかありません。さまよいが終わらない。終わりのないさまよいの歯車に囚われて人生を生きていくようになります。一生涯、幸せを求めて人生の答えを求め続ける人生になります。答えは絶対に見当たらないのに。それをさまよおうと言います。そして、自分なりに答えに辿り着いたと思っても、それは全部偽物であり、間違った答えに囚われて、騙される人生を生涯を送るようになるしかありません。なぜなのでしょう。人が悪いから良いからということではありません。福音を知らないということはそういうことなのです。なんと恐ろしいことでしょうか。自分で血が滲むような努力をした

としてもこのままなのです。根本的に何も変わらないのです。これを知らないからいつも誰かのせい、何かのせい。目に見えることにいつも囚われて、それが心の傷になり、トラウマになるしかないのではないのでしょうか。これが福音を知らないということです。

5) 福音の拒否

そして、もっと大変なのは、福音を知らないでいると、イスラエルの人のように神様から福音を聞かされる機会を許されたのに、その福音を拒否して逃げてしまいます。福音を知らないで、いのちの福音、希望の光がやってきたにもかかわらず、それを拒否して逃げていくようになります。まったく希望などありません。

6) サタンの使い(神様を殺す?)

そして極めつけは、福音を知らないで福音から逃げることに止まらず、積極的に真の神様に敵対して、神様を殺すこととなります。神様は殺されません。しかし、悪魔サタンの策略に囚われて、自分はそういう意図があるのかどうかは別にして、悪魔の使いとして人生を生きることとなります。なんと恐ろしいことでしょうか。自分は勉強を通して博士になったつもりなのに、自分は自分なりに修行を通して真面目な宗教家になったつもりなのに、悪魔の使いになってしまいます。自分がそのように願うか願わないかは全く関係ありません。福音を知らないことはこのように恐ろしいことです。今日の聖書の箇所から見られることがそれなのです。神のみことばをいただいて、自分なりに神を愛するつもりなのに、神ご自身であるキリストを殺すことに加担するわけです。なぜなのでしょう。もともと性格が悪いからなのでしょう。DNAが悪いからなのでしょう。

7) 最高の不幸

福音を知らないからそうなります。福音を知らないというのは滅びのままの状態であり、良いものを持っていけば、その良いものがその人に役に立つのではなくて、神に敵対する方向に武器として用いられることとなります。その人の意志とは全く関係ありません。それでも福音を知るか知らないかなんてどうでもいいよと思うつもりでしょうか。福音を知らないことが世界で何より恐ろしいことです。戦争より恐ろしいことです。死ぬことより恐ろしいことです。聖書に登場している神様に用いられた信仰の先輩たちはこれがわかっていました。だから捕虜にされても捕虜にされることは怖くありません。福音がわかっていないことが怖いわけです。死の危機がやってきても死を恐れることはありませんでした。福音を知らないことが怖いわけです。財産を奪われ、家族が奪われ、命が奪われる危機がやってきます。しかし、それは彼らにとって怖いことでもなんでもありません。全部超越します。なぜでしょうか。それは本当に恐ろしいことではないということがわかっていました。福音を知らないことが一番恐ろしいことなのです。教会に長年通っていても、このような一番大きな命題がクリアできて整理されていないので、ずっと荒野を繰り返すわけです。その次の祝福のステップがあるのになかなかそちらの方に進むことができないのです。それで何かがあればすぐつまずいてしまいます。信仰生活において自分がつまずいた場合には、確かに相手の何かが悪かったかもしれませんが、そういうふうにはずと騙されっぱなしなのです。私が福音をよくわかっていないんだな。私にとって福音が実際的ではないんだな。私は福音が弱いんだなというところにフォーカスを変えないといけません。

2024 年をスタートするこの時に、このことを改めて明確に確認し、皆さんの心に刻み込みにしましょう。それで今まで皆さんが考えていたさまざまなことをそこに照らして整理してみてください。それが癒しなのです。悪魔はたぶんそうさせないために暴れるでしょうけれども、それを退けつつ、ぜひ真剣に考えてみましょう。大切な大切なテーマです。

2. 世界で一番幸いなことは福音を知ることである。

当然、二番目です。世界で一番幸いなことは福音を知っていることなのです。大金持ちになったこと、優しい親元で生まれたことではなくて、病気などなく健康に過ごすことが幸いではなくて、福音が私のものになって私に届いて、こんな乞食のような惨めな私に福音が与えられて、その福音に気づいて福音が何かわかるようになった。そこに幸せがあり、本当の幸いはそこにあるわけです。それを明確にして、そのほかの何かのさまざまな声を全部カットして 2024 年をスタートしていきましょう。福音を知るということは、単に

教会に通うということではありません。先ほど申し上げました福音の内容、イエスはキリストです。そのイエス様を信じます。この福音を知っているということは、今まで申し上げました福音を知らないがゆえに囚われるしかない滅びの運命のすべてから完全に解放されることなのです。私たちが真面目に頑張るからこの運命が解けるわけではありません。大金持ちになるから、修行するからこの運命から解放されるわけではありません。とんでもありません。道は一本しかありません。この福音の他にはありません。

1) 福音を知らない滅びの運命から完全解放(ローマ 8:1-2)

この福音を知ることになったということは、すべての滅びの運命から完全に解放されたことなのです。ローマ 8:1-2「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです」。このように解放されます。わかりやすく申し上げますと、皆さんが信じるか信じないかの問題だけであって、過去現在未来、人生のすべての問題は終わりました。決して滅びることなど、私たちにはありません。

2) 新しく生まれる(ヨハネ 3:5、I コリント 3:16、ローマ 8:15)

なぜそのように言えるのかと言いますと、イエス様ご自身が自らおっしゃいました。福音を知るということは、新しく生まれることです。だから幸いです。イエス様がニコデモにおっしゃった言葉です。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることができません」。水と御霊によって私たちは新しく生まれることになりました。これが福音を知るということです。お父さん、お母さんから生まれた自分がいたでしょう。それで良かったな、悪かったないろいろ自分のことを考えていたかもしれません。しかし、福音を知る、イエスを信じるということは、神から新しく生まれたものになるわけです。親から生まれた自分にこだわらないように。それに囚われないように。だから幸いなものなのです。どのように新しく生まれるのでしょうか。I コリント 3:16、あなたがたは聖霊が宿る神の神殿であることがわかっていないのか。神様ご自身が私たちの内側に入って私のいのちとなります。聖霊を通して離れることもなく、奪われることもないように、永遠のいのちとなるために、神様ご自身が私のいのちになって新しく生まれました。新しく生まれることを命が生まれたと言うでしょう。普通に赤ちゃんが生まれた時にも。新しい命が誕生したと。神様ご自身が、三位一体の神様が、福音を知っている者の内側に宿り、その人のいのちとなりました。だから新しく生まれたというわけです。だからこそ、私たちだけが、福音を知っている人だけが、神様のことを「アバ、父」と呼ぶようになります。自分の父親ではないのに、変な人がお父さんと言うのはおかしいでしょう。お父さん、パパというのは自分を生んでくれたからというわけです。神様によって生まれたのです。だから、神様のことを「アバ、父」と呼ぶようになります。呼べるわけです。なぜでしょうか。本当の父親だから。福音を知るということは、そのように存在、身分が変わることなのです。

3) すべての霊的祝福の主人公(エペソ 1:3、ローマ 8:39、37、28)

ここまで皆が神の子どもですと簡単に考えるのですが、このように変えられた幸いなものなので、当たり前前に神にあるすべての霊的祝福が自分のものであるその主人公になります。誰がでしょうか。福音を知っているものが。パウロは刑務所の中にいたときにも、その刑務所という環境、状況など一切関係ないのです。天にある霊的すべての祝福を頂いていると感謝しています。(エペソ 1:3)そして、この祝福は誰も奪うことも変わることもない永遠なるものなのです。ローマ 8:39、だれも「キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません」。これは変わることがありません。永遠に続きます。刑務所に入っていようが出ようが、これは変わりません。死の影の谷を歩いていようが、絨毯の上を歩いていようが関係ありません。そういうことに左右されないし、そういうことに振り回されることがない霊的すべての祝福を頂いているのです。神様ご自身がいつまでもともにいらっしゃいます。だから、どのようなことがあっても圧倒的な勝利者となる祝福の主人公です(37)。勝利するだけではありません。すべてを働かせて、それが祝福に変わる不思議な勝利の主人公です(28)。誰がでしょうか。周りからどんなに指をさされていたとしても、過去、どのように惨めな人生を歩いていたとしても、一切関係ありません。心に刻んでおいてください。イエスをキリストと信じ福音がわかっているものは奇跡の主人公なのです。そういう人がこのような祝福の主人公であり、幸いなものなのです。

4) 光のやぐらとしての人生(マタイ 5:14、I ペテロ 2:9、エペソ 1:23)

だからやっと初めて自分本位、自分のための人生ではなくて、他人のための人生を生きる素敵な人になります。それを光のやぐらと言います。みんなが知らないで福音を知らないで暗闇に囚われて、囚われているかどうかも知らずにさまよっているのです。みなが誰かのせい何かのせい、自分さえ良ければ、金さえあれば、成功さえあれば、そういう風に騙されて生きているわけです。しかし、幸せは手に入らないので精神的にやられ、肉体的にやられ、人間関係にやられて家庭がやられて、社会がやられて世界全体が蠢くような、そういう状態になっているわけです。それを見て、彼らに真の幸せが何なのか。救いの道は何なのかということをお話してあげたい、言ってあげなくちゃと思う人間になります。それこそが本当の愛なのです。誰がでしょうか。小さな子どもでも関係ありません。年寄りでも関係ありません。お金がなくてもあっても関係ありません。イエス様をキリストと信じる福音を知っている者はそのように変えられています。あなたがたは、世の光です(マタイ 5:14)。王である祭司なんだ。あなたがたを、やみの中から、光へと導き入れられた神様のすばらしいみわざを、宣べ伝えるために、光の戦士として召されているのだと言われる者になります(I ペテロ 2:9)。そのような内容を圧縮して表現したものが、キリストのからだなる教会です(エペソ 1:23)。私たちひとりひとはキリストとくっついていて、今日、それを忘れちゃったね。久しぶりに司会をやったので。「私は幸い。イエスはぶどうの木、私は枝です」。今思い出しました。福音を知っている者はイエス様がぶどうの木で、私はそれにくっついていて、そこからいのちのエネルギーが24時間流れている枝なのです。それを教会と言います。だから皆さんを通して、私たちにはそれがありませんけれども、キリストのいのち、闇に囚われている、騙されている人々を生かすことができるその光のエネルギーが私たちを通して流れるようになっているのです。それに気づいたときに、その人はミッションの人生を生きるようになります。ただ幸せになるために、成功するために、家庭をどうにかするために、そういう次元の人生ではありません。それらのすべては加えて与えられるものだというのをいわれているし、その超越の答えの人生は歩くようになります。そのときに証人となります。

なので、2024年を始めるこのときに、わかっていると簡単に思わないで、皆さん、今まで本当に世界で一番恐ろしいことに対してどういうふうに思っていたでしょうか。何にがっかりして気持ちが暗くなったでしょうか。それを修正しましょう。福音を知らないことが最悪なのです。逆になぜかわかりませんが、親が教会に行って一緒に連れていかれてそうなったのか、病気によってそうなったのか、誰かに誘われて信者になったのか、さまざまなきっかけがあるでしょうけれどもそれも全部忘れて、結果的に惨めな私のような人間が、奇跡によって神の恵みによってイエス様をキリストと信じて、この福音を受け入れることができたということに心から感謝をもってください。何がどうであろうがそれに影響を受けなくて、これ一本に絞って私は幸いなんだ。その幸いな内容を考えることを黙想と言います。とにかくメッセージを通して納得して、自分の条件、過去、環境、状況などに左右されないで、私は幸いなものだ。だから自分が幸せなものだという確信がなければ、結局、人生の幸せのためにというテーマから抜け出せないのです。もう幸せなのに、何で幸せのためにでしょうか。だから証人としての神の答えの道が開かれられないのです。ずっとサタンをやぐらがそれを邪魔するわけです。私は幸いなんだ。今たとえガンにかかっていたとしても、明日死ぬということになっていたとしても、私は幸いなのです。すべてを超越できる力が私たちには約束されています。これをしっかり整理して、これから2024年はもちろん、一生涯、肉体的なもので、人の幸せと不幸を天秤にかける真似はやめましょう。やめましょう。皆さん、脳細胞に暗いものがくっついていて、肉体的なもので、目に見える何かの事柄で、自分の人生の幸せ、不幸を評価していたそのものが残っているのです。暗い影を落とされています。みことばの光によってそれが全部飛んでいくように繰り返し、繰り返し告白しましょう。

なので福音を知っている自分は、先ほども申し上げましたように、ほかのなにかと一切関係なく幸いなものだという確信を持って自分を持ってスタートしましょう。そして、幸いな者に間違いなければ、その幸いという一番の根拠、核心ポイントは何でしょうか。三位一体の神様が私の内側にいのちとなっていてしゃいます。そこをポイントに絞って幸いな者に間違いなければ、ならば、どんな条件、環境、状況でもそれに溺れることなく、これから神様から与えられる本物の祝福、幸いなものがゆえに与えられる祝福、その本物の祝福は奪われることなく変わることのない地上のものとは違う永遠なる祝福なのです。そして、それは霊的な祝福です。本物の祝福、永遠なる祝福、霊的祝福。それが元旦のメッセージのテーマです。それが私

の中に現れること、現場に現れること、237、5000 未伝道種族に現れることを信じましょう。そして、祈りをもって待ちつつ、集中して挑戦して行く 2024 年にしていきたいと思います。神様がそのように約束されたので、必ずその通りに成就させることを信じて、皆さんがそのような主人公であることを改めて祝福してお祈りをしたいと思います。

(祈り)

恵み深い父なる神様。2024 年、私たちに与えてくださり、契約のみことばを握ってスタートすることができて感謝申し上げます。どうか自分自身と世のさまざまな声に惑わされることなく、神のみことばを握って福音を中心にして自分が幸いな者であるという確信と自負をもって、御座の祝福を見上げる信仰をもってスタートできるように。それで神様が約束された永遠なる祝福、霊的祝福が具体的に現れて、ひとりひとりが証人となるようにこの一年間を導いて祝福を与えてください。イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン。